

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 22 日

事業所名 キッズ・レインボー

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---------|--|--|------|---|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 100% | 0% | プログラムにより戸外も使用し工夫している | 活動場所を広げることは困難なため、身体活動が十分できるよう、毎月2回づつ市民プラザ多目的室と小学校体育館で活動している。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 100% | 0% | 常勤・非常勤の配置を工夫している | 専門職配置に気を配り、勤務シフトに配慮している。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 57% | 43% | 生活場面全体に構造化を図り、視覚支援を重視した環境づくりに配慮している | 障がいの特性を踏まえ、事業所全体の安全性に配慮し、利用者の導線を工夫をしている。玄関などの段差については、利用者が気をつけて生活する練習になるのでバリアフリー化はしない予定です。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 75% | 20% | 毎日の朝礼と終礼後の打ち合わせで、業務改善を積み上げている | 大きな課題等は職員会議で協議して実行に移し、支援プログラムは実態の変化に応じて絶えず改善するように努めている |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 100% | 0% | 毎年アンケートを実施し、面談などの機会に意向の把握に努めている | 保護者や利用者の意見が聞ける様に配慮し、意向については、職員で協議し業務改善できるように努力している。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 100% | 0% | 評価結果を門真市手をつなぐ育成会のホームページで公開 | 保護者の意向をより広く反映できるよう工夫するとともに、支援の充実を図る。事業所の取り組みを公表していくよう努める |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 71% | 29% | 大阪府の研修や機関支援を受け、業務改善に活かしている | 第三者評価の実施は、今後検討していく。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 100% | 0% | 大阪府や育成会の研修を順次参加し、伝達講習にも努めている | 自主研修のため、DVD、ユーチューブなども活用し、心理・福祉・教育の基本的理解に努めている。今年度は『わかりやすい性教育』の研修も実施した |
| | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 89% | 11% | 行動観察、チェック表、面談などを通じて実態把握に努め支援計画に反映している | ご家庭から発達検査を受けられると検査結果をいただき、行動観察など行い計画作成し、発達検査受信の無い方には、行動観察と個別対応などから支援計画を作成している |
| 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 89% | 11% | 標準化されたアセスメントツールは使用していないが、ご家庭から情報提供を受け行動の理解をしている | 医療機関受診時の検査情報を可能な限り提供していただくようにしている | |
| 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 100% | 0% | 管理責任者と支援員の意見を交え協議して作成している | 利用者に応じた活動プログラムを絶えず意識して工夫に努めている | |
| 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 100% | 0% | 外出、調理、買い物、エアビ、おもちゃ図書館など多様な活動を実践 | 多様な社会経験ができるよう色々なプログラムの実践に努め、5領域を組み合わせたプログラムを工夫している | |
| 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 100% | 0% | 前月10日を目途に月予定を決めプログラム作成している | 長期休暇と土曜日は、社会体験を療育に盛り込み、平日は利用者個々の課題に対応できるように努めている | |

| | | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|---|------|---------------------------|---|--|
| 適切な支援の提供 | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 100% | 0% | 設定療育は集団活動を中心として、自由遊びは小集団で個別的な対応をしながら柔軟に計画作成している | 発達段階等も考慮し、個別や小集団での活動も重視している |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 100% | 0% | 毎日の朝礼で送迎配車、担当者、支援プログラムと役割分担などを文書を介して確認している | 安全安心をモットーに利用者、職員体制、支援内容など、管理者を中心に漏れがない体制づくりに努めている |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 100% | 0% | 終礼時に一日を振り返り業務日誌に反映し、改善への手がかりとしている | 自由に話せる職場の雰囲気づくりに配慮するとともに、振り返りシートに支援終了後記入してもらい、支援の向上を図っている |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 100% | 0% | サービス提供記録票を個別カルテに集積し、支援の改善につなげている | 業務日誌に指摘された事項はフリーティングで課題を明確にして検証し改善の手立てとしている |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 100% | 0% | 定期的実施し、必要に応じて柔軟に対応している | 成長発達の状況や家庭環境等の変化に対応して柔軟に対応するため、関係機関との連携を一層深め計画の見直し、更新を行っている |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 100% | 0% | 基本活動を組み合わせ、家族支援を大切にしている | 複数事業所利用者は其々の事業所の役割分担を配慮しつつ基本活動を組み合わせ支援をしている |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 100% | 0% | 最も適した職員が参画し、他の事業所の担当者との情報交換で連携強化を図っている | 門真市ではサービス担当者会議が殆どないので、学校、家庭などの統一支援ができていないのが疑問である。相談支援事業所に、サービス担当者会議の実施を求めている |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 100% | 0% | 学校との連絡調整と情報共有により、迅速な対応に努めている | 学校およびご家庭の協力を得て、関係機関との連絡調整を積極的に行い、保護者の同意を得て学校担当者とも連携を図るように努めている |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | 該当者はありません | 該当者はありません |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 100% | 0% | 双方が連絡を密にする必要性のある場合は情報共有している | 移行期の支援については関係機関との連携とご家庭から情報提供に配慮している |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 100% | 0% | 進路先やご家庭から情報提供を求められた場合は行っている | 情報提供のための資料は整えている。保護者にはモニタリングを実施し書面でお渡している |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 100% | 0% | 専門機関との連携を密にし、積極的に研修に参加している | 利用者の居住地が複数の市にあるため、門真市以外の利用者には十分な連携ができていないことが課題である |
| 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | 100% | 0% | 障がいのない児童等との交流活動を年1回実施している | 交流と活動の機会を模索している | |

| | | | | | | |
|------------|----|--|------|-----|--|--|
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 100% | 0% | 理事長が市の各種協議会等に参画し、意見反映と情報収集の機会となっている | 大阪府の手をつなぐ育成会役員として、府全体の動向や情報を得ると共に、門真市の協議会には参画しています。行政主導の障がい理解啓発の取り組みが少ないことが課題である |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 100% | 0% | 連絡帳やLINEを活用し情報共有を図っている | 利用者のより良い発達を目指して保護者支援を実施している。当事業所は当事者団体が運営している強みがあり、ペアレントメンター活動に取り組んでいる |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 100% | 0% | 保護者の悩みや困りごとについて相談対応している | 「門真市手をつなぐ育成会」役員を中心に保護者支援(ペアレントメンター活動)を行い、必要に応じて関係機関の研修の情報提供も行っている |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 100% | 0% | 契約時に詳しく説明すると共に、状況の変化に応じて説明を行っている | 現行の規定の中で、改定を要する内容があれば、その都度説明を丁寧に行っている |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 100% | 0% | 相談経験者や療育経験者が公認心理師と協力して支援を行っている | 大阪府及び全国組織と連携した親の会などの情報を得ながら、助言や相談などの支援をさらに充実している |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 100% | 0% | コロナ禍で開催できていなかった「保護者のつどい」を実施し、保護者同士の交流を支援していく予定 | 保護者同士の連携が図れる機会として親子プログラムなど計画している。先輩の親との交流も図れるよう、「門真市手をつなぐ育成会」の行事の案内をしている |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 100% | 0% | いつでも対応できる体制を取り、相談などがあれば迅速に対応している | 相談内容により、専門性の高い職員が対応できるように努めている |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 100% | 0% | 毎月の月予定を配布し、ホームページには会報や活動の様子を掲載している。 | 保護者の意見や感想をできる限り聞き取る工夫が必要 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 100% | 0% | 大阪府個人情報保護条例や法人の規定に則り、十分注意している | 定期的に保護条例、職員行動指針を再確認し、注意を喚起をしている |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 100% | 0% | 多様な手段で各ご家庭とコミュニケーションを深めることに努めている | 事業所全体で場面・教具等の視覚支援と構造化を図っている |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 88% | 13% | 地域の行事に積極的に参加したいと思っている | 法人本部と連携し、地域住民とも連携を図り、ボランティア体験の受け入れや、近隣大学から実習生の受け入れを行っている |
| 非常時 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 86% | 14% | 防災・防犯、発作、誤嚥、緊急蘇生法等のマニュアルを策定している | 定期的に確認・見直しを行っているが、避難訓練は形式的で実体験的な訓練ができていないのが課題である |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 100% | 0% | 一次避難所への訓練は実施している | 今後も市の「防災対策マニュアル」に則り、指定された避難場所への避難訓練などを定期的実施し、利用者への理解も深めるように説明をしている |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 100% | 0% | 大阪府や育成会本部の研修受講と伝達講習を実施している | 人権及び権利擁護に関する意識の向上と、虐待委員より職員の意識向上を図り、研修を実施している |

| | | | | | | |
|------------------|----|--|------|----|---|--|
| 等 の 対 応 | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 100% | 0% | 身体拘束は行わないことを徹底している。(送迎車内のシートベルトは完全にできている) | 保護者との連携を図り、法の趣旨の共通理解を深め複数で支援に当たり身体拘束が起こらないようにしている |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 100% | 0% | 果物アレルギーの1名は、ご家庭の協力を得て対応している | アレルギー対応の必要かどうかを丁寧に聞き取り、該当者が出た場合は必要に応じて、医師の指示書とマニュアルに従って対応します |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 100% | 0% | 事例検討会を行い事業所内で共有している | 未然防止に最大の注意をはらい、事例を文書化して記録に残し、安心・安全な環境整備に最大限の配慮をしている |